

東久留米市立西中学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒が、課題に意欲的かつ丁寧に取り組んでいる。さらに、自ら疑問をもって学習するように指導する。 筆記用具を正しく持っていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解のポイントとなる場面において、教師が問題を示すのではなく、生徒にポイントは何か、問題となる事柄は何かを考えさせる。 朝視写の時間に、補助具を用いて筆記用具の持ち方を正していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のポイントをどう捉えたか、振り返りシートに記入させ、確認する。その際、学習したことを基にして新たな疑問を見出すことを求める。以上のことを半数の生徒ができるようにする。 3学期終了までに、ほぼ全員が筆記用具を正しく持てるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 授業に意欲的に取り組む生徒が多いものの、思考判断したことを表現することを苦手としている生徒が一定数いる。 問題集や宿題の取組状況が芳しくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 到達目標に対する解答を書かせ、思考判断したことを表現する機会を増やし、適宜不十分な点を指導する。 取組状況を適宜点検・確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 無回答の生徒をなくし、半数以上の生徒が思考判断したことを表現できるようにする。 反復学習を促すために問題集や小テストから同じ問題を考査に出題する。知識理解の達成率8割を目指す。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習や教科書の問いに対して途中計算がないため、考えた過程をノート等の途中式から読み取ることができない生徒が多い。 週末プリントの提出率が低い。また、取り組み内容が雑な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の過程をきちんと書かせて、間違えた問題については、消さずに、自ら原因を追究して、横にやり直すように徹底する。 授業内で成功体験を多く与え、挑戦しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査で途中計算を見取る内容を出題し、5割以上の生徒が正答するように授業をしていく。 週末プリントの提出率を9割を目指して呼びかけ、取り組み内容を確認する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 授業に真剣に取り組む生徒が多く、指示したことについてもしっかり実行できる。 忘れ物が時々あったり、私語が気になることがある。受け身の姿勢を改善したい。 	<ul style="list-style-type: none"> より一層しっかり取り組ませるために、授業内で小テストを実施する。 発言の機会を増やし、積極的に授業に参加する姿勢をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の小テスト（復習確認テスト）により、理解度を確認する。 発言、発表の内容を評価し、小單元ごとにフィードバックしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 知覚した音が、音楽の諸要素のうちのどれに該当するのかが分からない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知覚した音を発表して級友と共有する際に、どの要素に該当するのかを明らかにする。（要素の名称をマグネットシートにし、生徒の発言を板書したところに貼っていく。） 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想を説明する際に、音楽の諸要素を的確に用いて説明できるようにする。（授業中の発言、ワークシート、定期考査で確認する。）…7割の生徒が達成できるようにする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動に対してとても意欲的である。一方で、色や形がもつ効果を実感していても、活用できていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現や鑑賞をする際に活動のポイントを明示し、既習事項を用いて感じた事を伝えたり作品に表せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと作品表現を関連付けて説明することを、8割の生徒が達成できるようにする。（ワークシートの記述、定期考査、発言）
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲は高い。走力、筋力、投力、柔軟性などの基本的な体力の低さを感じる。また、運動経験の少なさから調整力などの体をコントロールする力の低さを感じる。 技術の伝達や作戦を立てるなど、話し合いの活動で仲間とコミュニケーションをとるのが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ランニング、筋力トレーニング、ストレッチなどを毎時間の授業で行い、習慣化するようにする。コーディネーショントレーニングなど活用していく。 球技など集団で行う種目では練習計画や作戦を立てる時間を多く取る。個人種目では相互評価を行うことで生徒同士が会話をする時間を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察を行う。また、今年度の新体力テストと来年度の結果を比較し、検証を行う。 行動観察を行う。また、学習カードに「仲間とコミュニケーションがとれているか」という内容の項目で確認する。相互評価カードより仲間の活動に関心が持っているかを確認する。

技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりについて関心を持ち、意欲的に製作に取り組んでいる。しかし、ものを作った経験が少ないため、初めてのこぎりを触るという生徒が多い。 ・作業の工程や流れなど、作業内容の把握に差がある。また、進度に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて扱う工具を、生徒が安全で正しく使用できるように、様々な事例をICT等で提示し理解させる。 ・作業工程を細かく図解し、自分の考えで進められるよう工夫し、達成感を味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テストや、動画撮影を通して、安全で正しく作業ができるているか、確認。また、それらに関わる内容を定期考査で出題し確認する。 ○作業工程についてしっかり理解ができるているか、学期の考査で確認する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活をするためには毎日の栄養バランスのよい食事が必要であることに気付き、意欲的に授業に臨む生徒が多い。 ・自ら工夫する力と家庭で実践できる力を付けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を生かして実生活に生きる「自ら工夫し考える力」を付けるため、朝食について振り返り改善できるようにする。さらにこれを生かし、献立を工夫し、考え、調理し、発展させられるようにする。 ・実習を通して、事前学習での理解力を付ける工夫と実習後の家庭での実践を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎朝食献立を考えさせ、朝食を食べることの意味や大切さを理解できているかを、内容とまとめて確認する。 ○調理の仕方を、自ら図示と言葉でレシピにおこすことで、イメージし理解する力を付ける。レシピで評価。そして実践して実践記録を作成させる。実践記録内容で評価。(1回)
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘボン式のローマ字に慣れておらず、ローマ字で正しく日本語を書くことができていない。 ・文を書くときのルール(文頭は大文字、文末にはピリオドを書くなど)が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘボン式で書く復習を副教材を使って授業で行い、再度小テストで形成的評価を実施する。 ・考査等では、特に表現の問題では、評価の観点に、ローマ字での表記などの項目を設け、正しく書くことができているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2学期の始めに、授業内でヘボン式ローマ字の確認テストを行う。 ○2学期の期末考査までに、全員に文の書き方のルールを理解させる。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意見を持ち、述べることができる。話し合い活動では他の意見を傾聴し、見方・考え方を広げようとする生徒が多い。 ・より多面的・多角的な見方・考え方ができる生徒を増やすために、様々な意見を取り上げる学習指導案を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容項目にそって、さらに多面的・多角的な見方考え方を深められるよう、発問を工夫する。 ・教科書の活用に関して、より考え方が深まるように工夫すると同時に、資料を短縮したり登場人物の位置関係を分かりやすいイラストで説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワークシートをファイルにストックし、生徒自身が自らの成長を把握できるようにする。 ◎学期末にワークシートを引用しながら個人内評価を行うとともに、成長が見られた点を励まし、更なる成長につなげる。
問総合的な学習の時	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人の職業のつながりを考えることができる生徒が多い。 ・これからの見通しをもって取り組むことが出来るように流れについて丁寧に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の開始時に到達目標とそこまでの期間を確認し、見通しをもたせる。 ・取組の予定や調べ方を意識させるため、計画や調べ方をワークシートや掲示物で示し、丁寧に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心のある職業を明確に挙げることでできる生徒を7割以上にする。 ○学習の最後に学んだことをまとめさせ、調べ学習の方法や発表の良かった点、改善すべき点を確認する。